

2019年7月31日
農林中央金庫 営業第五部
日本政策金融公庫 仙台支店

気仙沼かなえ漁業株式会社への協調融資について ～近海まぐろ漁業会社の協業による経営力強化および新船建造を支援～

農林中央金庫（略称：農林中金）と日本政策金融公庫（略称：日本公庫）は、宮城県気仙沼市を拠点に近海まぐろはえ縄漁業ⁱを営む気仙沼かなえ漁業株式会社（以下「当社」という。）の漁船建造に対して協調融資を行いましたので、お知らせします。

○ 東日本大震災からの復興を目指し、気仙沼市の漁業会社6社が協業新会社を設立

宮城県の北東部に位置する気仙沼市では、波静かな天然の良港としての環境も相まって、16世紀後半から様々な形態の漁業が営まれてきました。なかでも、近海まぐろはえ縄漁業は仕込みから水揚げまでのほぼすべての工程を気仙沼市で行う漁業形態として、同地域の漁業基盤を支えてきました。

しかし、2011年の東日本大震災による加工・流通等の混乱に加え、今般の燃油相場変動等による操業コストの増加もあり、近海まぐろはえ縄漁業者の経営環境は非常に厳しい状況にあり、1989年（平成元年）に65隻を数えた同地域の近海まぐろはえ縄漁船は、2019年には12隻まで減少しました。

当社は、気仙沼の漁業を維持・発展させるべく、同地域の近海まぐろはえ縄漁業会社6社の共同出資のもと、2018年10月に設立されました。気仙沼湾の古い呼び名である「鼎が浦（かなえがうら）」にちなみ、“漁業の街 気仙沼”の「夢をかなえる」会社になりたいという想いが社名に込められています。

当社では、従来共有されることの少なかった漁船操業ノウハウ等を社内で共有することにより、操業のさらなる効率化を図るとともに、保有漁船8隻のうち、老朽化が進みつつある3隻を、今後3年間で順次代船していくこととしています。

○ 農林中金・日本公庫が協調して当社事業ビジョンの実現を金融・非金融面から支援

今回の代船建造にあたり、農林中金は当社の事業ビジョンを踏まえた代船建造計画の策定支援を行うとともに、建造資金200百万円を融資しました。また、日本公庫はビジネスモデルの評価・助言を行うとともに、農林中金を受託機関として建造資金348百万円を融資しました。

当社は、「これまでライバルとして切磋琢磨してきた漁業会社が手を取り合って、“漁業の街 気仙沼”を盛り立てていきたい」と話しています。

農林中金および日本公庫は、今後とも経営支援や融資を通じて、漁業の成長産業化を通じた地方創生の取組みを積極的に支援してまいります。

(参 考)

1 支援先の概要

事 業 者	気仙沼かなえ漁業株式会社
代 表 者	鈴木 一朗
所 在 地	宮城県気仙沼市港町502番地1
設立年月日	2018年10月23日
資 本 金	40百万円
事 業 内 容	近海まぐろはえ縄漁業

2 近海まぐろはえ縄漁船の操業風景およびその漁獲物（メカジキの切り身）



<お問い合わせ先>

- 農林中央金庫 営業第五部 Tel : 03-5222-2268 (八田、日比野)
〒100 - 8420 東京都千代田区有楽町1-13-2 DNタワー21
- 日本政策金融公庫 仙台支店 農林水産事業 Tel : 022-221-2335 (種田、阿知波)
〒980 - 8454 宮城県仙台市青葉区中央1-6-35 東京建物仙台ビル11階

ⁱ 気仙沼地域の近海まぐろはえ縄漁業（大臣許可漁業）は、メカジキ・ヨシキリザメ等を主に漁獲しており、漁獲物はすべて生鮮で気仙沼市魚市場へ水揚げされます。メカジキは刺身や切り身として、ヨシキリザメはフカヒレや練り製品の原料として親しまれています。